

外国人児童のための小学校社会科教材 (小学校 6 年生 歴史教材)



復元された大極殿 平城宮跡

愛知教育大学 外国人児童生徒支援 リソースルーム

社会科教材の作成について

愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム
社会科教材部会

愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルームでは、2010年度から小学校6年生の歴史教材の作成に取りかかりました。この歴史教材の作成にあたって、私たちが考えたことは、日本人・外国人の区別なく、社会科（歴史）を学ぶ楽しさや、みんなで話し合い課題を解決するすばらしさを感じられる授業をつくることです。社会科（歴史）に興味を持ち、勉強しようとする気持ちを持たせることは、外国人の児童に限らず、日本人の児童にも必要なことです。

そこで、児童がゲームや体験活動を通して歴史事象に興味をもち、課題に対して自分の考えをもち、友だちと話し合いながら歴史を学んでいくことのできる教材作りを心がけました。ゲームや体験活動を行う上で必要な資料は、できるだけわかりやすい日本語になるように努めました。しかし、この教材は、教科書の概要をリライトすることがねらいではないため、教師の指導力や教材に関する理解力がかなり必要となってきます。教師が社会科（歴史）の特性を理解し、教師自身が社会科（歴史）のおもしろさや奥深さを追究する姿勢を子どもたちに示すことが大切です。誰よりも、教師自身が楽しむことによって、子どもたちの知的好奇心を刺激してほしいと思います。

今回作成した教材を学校現場で実践していただき、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。実践を積み重ねることで、教材をよりよいものに改善し、さらに新しい教材作りに取り組んでいきたいと思っています。なお、授業において教材を活用していただくことは構いませんが、著作権は、愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルームにあります。授業以外に教材を活用される場合は、リソースルームにご相談ください。

<もくじ>

貴族の政治とくらし	1
-----------	---

どうして遣唐使は派遣されたのか？ 小学校第6学年社会科学習指導案	3
----------------------------------	---

Ⅰ 小单元	3
-------	---

Ⅱ 小单元の目標	3
----------	---

Ⅲ 新学習指導要領改訂のポイントとの関わり	3
-----------------------	---

Ⅳ 外国人児童への学習支援の視点	3
------------------	---

Ⅴ 単元構想（3時間完了）	4
---------------	---

Ⅵ 第1時・2時の授業	4
-------------	---

Ⅶ 第3時の授業	7
----------	---

ヒントカード	8
--------	---

遣唐使すごろく（往路・復路・コマ）	14
-------------------	----

（資料）どうして、遣唐使は派遣されたのか？	17
-----------------------	----

（追加教師用資料）	21
-----------	----

貴族の政治とくらし

1 聖徳太子の国造り

- * 聖徳太子は摂政です。摂政は天皇を助ける仕事です。聖徳太子は天皇が中心の国造りを始めました。蘇我氏と一緒にしました。
- * 聖徳太子は冠位十二階を作りました。才能のある人が仕事をできるようにするためです。
- * 聖徳太子は十七条の憲法を作りました。十七条の憲法は役人の心構えです。
- * 聖徳太子は仏教を信じていました。そしてみんなに広めました。法隆寺というお寺も作りました。
- * 聖徳太子は小野妹子を隋(中国)へ派遣しました。それが遣隋使です。隋の新しい制度や文化、学問を勉強するためです。

2 大化の改新

- * 聖徳太子は622年に死にました。そのあと蘇我氏の力は天皇よりも強くなりました。
- * 645年に中大兄皇子(天智天皇)と中臣鎌足(藤原鎌足)は蘇我氏を倒しました。そして新しい国造りを始めました。これが大化の改新です。
- * 大化の改新の後、新しい政治のしくみと税金の制度ができました。天皇が中心の国造りも本格的に始まりました。
- * 新しい政治のしくみと税金の制度
 - ・ 豪族は貴族になりました。国の政治は貴族がすることになりました。地方の政治は役人がすることになりました。
 - ・ 土地と人はすべて国のものになりました。(公地公民)
 - ・ 国は6歳以上のすべての人に田(口分田)を与えます。そして死んだら国へ返します。(班田收授法)
 - ・ 租・調・庸という税金がありました。国のために働いたり、国を守ったりする義務もありました。

3 平城京と大仏づくり

- * 8世紀の初めに天皇は新しい都を作りました。奈良に作りました。(平城京)
- * 平城京は唐(中国)の長安を見本にしました。
- * 聖武天皇は東大寺と大仏を作りました。そして地方に国分寺(国分尼寺)を作りました。世の中を平和にするためです。
- * 地方の農民は税金が重く、生活が大変でした。逃げ出す人もいました。
- * 天皇は唐へ遣唐使や留学生、お坊さんを送りました。遣唐使や留学生は唐の制度や文

化を学びました。

* 中国や朝鮮半島から日本へも、使者や学者、技術者が来ました。

* 遣唐使は中国の素晴らしい宝物を日本に持ってきました。宝物は東大寺の正倉院にあります。

* 鑑真は中国人のお坊さんです。日本に来て仏教を広めました。

* 奈良時代に『古事記』『日本書紀』が作られました。国がどうやってできたかや、天皇の歴史が書いてあります。

* 『万葉集』という本も作られました。『万葉集』には天皇や貴族、農民の歌が集められています。

* 正倉院にはインドや西アジアの宝物もあります。宝物はシルクロード(絹の道)を通してインドから中国へきました。それを遣唐使が日本へ持ってきました。

どうして遣唐使は派遣されたのか？

小学校第6学年 社会科学習指導案

I 小单元 「さあ、出かけよう！遣唐使の旅へ」

II 小单元の目標

- 積極的に「遣唐使すごろく」の活動に参加し、遣唐使に関する疑問や課題について意欲的に意見を出し合い、解決しようとする。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- 唐を中心とした東アジア世界の中で、日本が遣唐使を派遣した理由について、グループで話し合い、自分の言葉で発表できる。 (社会的な思考・判断・表現)
- カードや資料から、必要な情報を選び取り、根拠を示しながら、友だちと意見を交換したり、教師の質問に答えたりできる。 (観察・資料活用 of 技能)
- 遣唐使に関する学習を通して、当時の日本が、唐の先進的な学問・文化・宗教・政治体制などを取り入れた国づくりを行っていたことを理解する。 (社会的事象についての知識・理解)

III 新学習指導要領改訂のポイントとの関わり

- ・遣唐使になって旅をするという擬似体験を学習に位置づけることにより、知識・技能を習得する。
- ・各種の資料（ヒントカード）から、必要な情報を集めて読み取ったり、いくつかのヒントカードを比較・関連付けたりすることで、遣唐使の旅を成功させるために必要な事柄をまとめる。
- ・自分の言葉で遣唐使に関する学習のまとめを伝え合い、さらに疑問を引き出して、お互いの考えを深める。

IV 外国人児童への学習支援の視点

- ・遊びの要素を含んだ活動を通して、日本と東アジアの歴史についての興味関心を高めることができる。
- ・グループでの関わり合いや学び合いを通して、わからないことを聞いたり、教えたりできる。
- ・同じ目的意識を持って活動に取り組むことで、学ぶ楽しさを味わい、達成感を感じることができる。

V 単元構想（3時間完了）

段階	学 習 過 程
導 入	【第1時】 ・「遣唐使」に関するヒントカードを集めて、「遣唐使すごろく」の旅の準備をする。 ・天皇に謁見し、遣唐使に関する質問に答えて、旅の許可を得て、唐に渡る。
展 開	【第2時】 ・グループごとに「遣唐使すごろく」の旅に出かける。 ・唐の皇帝に謁見し、遣唐使に関する質問に答えてお土産をもらい、日本へ帰る。
ま と め	【第3時】 ・遣唐使に関する疑問を発表する。 ・当時の遣唐使の旅の話を聞く。 ・自分の感想をまとめて発表する。

VI 第1時・2時の授業

（1）本時の目標

- グループの仲間と協力して、積極的に「遣唐使すごろく」の旅に参加し、遣唐使への関心を高める。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 集めた情報をもとに、グループで話し合って遣唐使に関する質問を想定し、天皇や皇帝の前で答える。
(社会的な思考・判断・表現)
- 「ヒントカード」から、遣唐使に関する必要な情報を探し出し、読み取る。
(観察・資料活用 of 技能)
- 「遣唐使すごろく」の旅を通して、遣唐使に関する知識や理解を深める。
(社会的事象についての知識・理解)

（2）展 開

【準備するもの】 遣唐使すごろく（A3に拡大したもの：グループ数分）、船に見立てたすごろくのこま（クラスの人数分）、サイコロ（グループ数分）、ヒントカード、授業の振り返り・感想カード

【準備すると盛り上がるもの】 天皇や皇帝の衣装、遣唐使船、朝貢品や唐の文物に関する写真や絵など

学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点
≪前半≫ ・天皇役の教師から遣唐使に任命され、遣唐使の役割を理解し、旅の支度を する。	さあ、出かけよう！遣唐使の旅へ ・遣唐使の役割や使命について説明し、学習への意欲を高める。

・4人グループを作り、役割分担をする。 ○大使（代表，天皇の権限を一部担う） ○副使（副代表・統制） ○判官（実際のまとめ役） ○録事（公文書を作成する） ・遣唐使の旅に出かけるために，ヒントカードを集めて，グループで遣唐使についての情報を共有する。 ・天皇役の教師の質問に答えられるように，グループで学習する。 ・ヒントカードを他の班と交換することで，遣唐使に関する情報を増やし，理解を深める。 【天皇から質問される主な内容】 ・どういう人達を連れて行くか。 ・どのルートを通るか。 ・いつ出発するか。 ・何隻の船を調達するか。 ・朝貢品（おみやげ）に何を持っていくか。 ・唐から何を買って帰るか。 ・天皇（教師）の質問に正解すると「遣唐使すごろく」と4隻の船（すごろくのコマ），サイコロが渡される。 ・グループで「遣唐使すごろく」を楽しむ。 《後半》 ・「遣唐使すごろく」の旅で，唐の長安の都まで到着したら，遣唐使の任務を果たすため，中国の皇帝役の教師のところへ行く。	【遣唐使の使命】 「東アジア第一の大国である唐と友好関係を保ち，世界的に優れた文化を取り入れる」 【遣唐使の任務】 ・皇帝に謁見する儀式に参加する。 ・正月の朝賀の儀式に参加する。 ・朝貢品を献上する。 ・唐の盛んな文化を実地見聞する。 ・長安で買い物をして日本に持ち帰る。 ・留学生・留学僧の受入を申請する。 ・ヒントカードを一グループにつき5枚配り，交換することができることを説明する。 ・天皇からの質問には，一人一つ必ず答える必要があるため，グループ全員が遣唐使について理解する必要があることを伝える。 ・「遣唐使すごろく」が早く終わったグループには，さらに遣唐使について調べてみたいことや授業の感想などを書くように指示する。 【皇帝に謁見する儀式】 ・朝貢品等を献上する。 ・国書を伝達する。（臣下である日本国王が皇帝に上言するという，上表文の形をとっていた） ・皇帝から様々な許可を得る。（実はこれが朝貢の意を表すよりも重要な使命だった） ①国内各地の見学希望 ②買い物の許可申請 ③留学生・留学僧の受け入れ申請
--	--

【遣唐使の任務と皇帝からの質問内容】 1) 皇帝に謁見する儀式に参加する。 →皇帝にお会いしてどんなお願いをするか。 2) 正月の朝賀の儀式に参加する。 →中国の皇帝によって、何のために正月の朝賀の儀式が行われるのか。 3) 朝貢品を献上する。 →日本から持ってきた朝貢品にはどんなものがあるか。 4) 唐の盛んな文化や政治を実地見聞する。 →当時の唐の文化の特徴は何か。 5) 長安で買い物をして日本に持ち帰る。 →どんな物を買って日本に持ち帰ったか。 6) 留学生・留学僧の受入を申請する。 →唐の官吏試験に合格した日本人は誰か。 ・遣唐使の任務を終えた後、「遣唐使すごろく」の旅で日本に戻る。 ・日本に帰国したら、天皇役の教員に帰国の報告をした後、感想カードに記入し、授業の振り返りをする。	【正月の朝賀の儀式】 唐では、元旦に皇帝自ら朝賀の儀に臨み、臣下や朝貢使節の祝賀を受けた。この席には、中国全土からの貢献物が並べられるとともに、朝貢した外国からの朝貢品も陳列される。皇帝の徳化が、いかにすみずみまで行き届いているかを示す、儀礼の場であった。 【日本から唐の皇帝に献上した朝貢品】 銀 (500 両 21kg : 対馬産)、絹製品 (平織りの絹、絹糸、絹綿、色染めにした平織りの絹、幅広の絹、良質の絹、黄色の絹織り、黄色の絹糸など)、麻布、水晶製レンズ、火打ち金、^{めのう}瑪瑙、^{あまずらのしる}つばき油、^{こしあぶら}甘葛汁 (甘味料)、^{こしあぶら}金漆 (コシアブラという樹木からとる樹脂液で、塗るとさびを防ぐ効果があり、武器の製造に欠かせない品)、和同開珎 (和同銀銭)、砂金 (大 100 両 4.2kg) など。 【唐の文化】 仏教、道教、寺院、薬、天文学、暦、音楽 (楽器・演奏)、武器・ガラスの作り方、経、法律など。 【長安での買い物】 香木 (千手観音を作る)、香料薬、鏡、楽器、仏教・儒教など中国学の書物、陶器、ガラス製品など。 【留学生・留学僧】 阿倍仲麻呂は、唐の官吏試験に合格したことのみならず、一人の日本人である。彼は優秀な成績をおさめたらしく、貴族の初任官として人気の高い皇太子付きの文庫係にはじまり、最後は侍従職にまで昇った。
--	--

Ⅶ 第3時の授業

(1) 本時の目標

○遣唐使に関する疑問を出し合い、意欲的に話し合いに参加する。

(社会的事象への関心・意欲・態度)

○なぜ日本が遣唐使を派遣したのかについて、友達の見解を聞き、自分の考えを発表できる。

(社会的な思考・判断・表現)

○いくつかの資料を活用し、遣唐使に関する疑問を解決する。(観察・資料活用)の技能)

○遣唐使に関わる疑問を解決する中で、当時の日本が、唐の先進的な学問・文化・宗教・政治体制などを取り入れた国づくりを行っていたことを理解する。

(社会的事象についての知識・理解)

(2) 展 開

【準備するもの】資料(児童用資料と追加の教師用資料)

学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点
前回の「遣唐使すごろく」の旅を振り返り、遣唐使に関する疑問を出し合う。 ・遣唐使になりたい人は多かったのかな。 ・船が沈没したらどうなるんだろう。 ・遣唐使の旅にかかる費用は、全部でどのくらいなんだろう。 ・唐には日本人の他に、どこの国や地域からどんな人たちが来ていたんだろう。 ・危険な航海の旅をしてまで、唐に行ったのはなぜかな。	前回の授業の振り返りを通して、子どもたちが抱いた素朴な疑問を引き出し、様々な疑問を整理する中で、学習課題を導き出す。 子どもたちの疑問に答えられるように、あらかじめ資料や写真などを準備しておく。 ＜資料・写真・地図＞ ・遣唐使に任命された人で、逃げ帰ってしまったエピソードを話す。 ・遣唐使の航海図を提示し、当時の航海の様子を説明する。 ・唐に朝貢していた当時の国の地図を資料として示す。
なぜ日本は、遣唐使を派遣したのだろう。	
学習課題についてグループで話し合い、発表する。 ・唐の文化や社会制度を日本の政治に取り入れたかったから。 ・仏教が盛んだったので、お経や仏像などを買い求めたり、仏教の教えを学んだりするため。 今日の授業を振り返り、感想を書く。	聖徳太子の時代に、仏教を積極的に取り入れたことや聖武天皇の時代に大仏をつくり、国分寺・国分尼寺を全国に作ったことなどをふりかえらせる。 唐の進んだ政治体制を取り入れ、律令制度を整えた経緯について触れる。

ヒントカード① けんとうしせん 遣唐使船のメンバーには、 ひと どんな人たちがいたの？	けんとうしせん おお わ 遣唐使船のメンバーは、大きく6つに分けることができるよ。 1) 使節 2) 通訳 3) 船員 4) 技手 5) 技術研修生 6) 留学生
ヒントカード② しせつ お ひと 「使節」と呼ばれる人たちは、 しごと どんな仕事をしたの？	たいし だいひょう ふくし はんがん 大使：代表 副使：副代表 判官：まとめ役 ろくじ 録事：記録や文章をまとめる。 ししょう 史生：記録や文章を作る。 ざっし 雑使：船の生活でのさまざまな仕事をする。 けんじん 僉人：大使などの世話をする。
ヒントカード③ つうやく ひと 「通訳」の人たちは、 ことば はな どんな言葉を話していたの？	けんとうしせん しゅるい ことば つうやく 遣唐使船には、3種類の言葉を通訳する人がいたよ。 1) 唐語：中国の言葉。 2) 新羅語：北朝鮮・韓国の言葉。 3) 奄美語：日本の奄美大島の言葉。

ヒントカード④ 「^{せんいん}船員」の^{ひと}人たちには、どんな^{しごと}仕事の^{やくわり}役割があったの？	1) ^{ちじょうせんじ}知乗船事: ^{せき}4隻の^{せきにんしゃ}船の責任者。 2) ^{せんし}船師: ^{かくふね}各船の^{せんちよう}船長。 3) ^{せんしやう}船匠: ^{ふなだいく}船大工。 4) ^{かじし}舵師: ^{かじと}船の^{せきにんしゃ}舵取りの責任者。 5) ^{かじとり}挟抄: ^{かじと}船の舵取りをする。 6) ^{かこおさ}水手長: ^{すいふ}水夫の^{せきにんしゃ}責任者。 7) ^{かこふね}水手: 船をこぐ人。
ヒントカード⑤ 「^{ぎしゅ}技手」と^よ呼ばれる人たちの^{しごと}お仕事はどんなこと？	1) ^{かんぬし}神主: ^{かみさま}神様に^{いの}祈る。 2) ^{うらべ}卜部: ^{うらな}占いをする。 3) ^{いし}医師: ^{びやうき}病気を^{なお}治す。 4) ^{おんみやうじ}陰陽師: まじない、^{うらな}占い、^{てんもんかんそく}天文観測。 5) ^{えし}画師: ^え画で^{きろく}記録をする。 6) ^{しゃしゅ}射手: ^{ほか}他から^せ攻められたら^{ゆみ}弓で^{たたか}戦う。 7) ^{おんじやうちやう}音声長: ^{おんがく}音楽の^{しきしや}指揮者。 8) ^{おんじやうしやう}音声生: ^{がっき}楽器の^{えんそう}演奏や^{うた}歌を^{うた}歌う。
ヒントカード⑥ 「^{ぎじゅつけんしゅうせい}技術研修生」は、^{なん}何の^{ぎじゅつ}技術を^{まな}学んだの？	1) ^{ぎよくしやう}玉生: ^{つく}ガラスを作る。 2) ^{たんしやう}鍛生: ^{きんぞく}金属を^{かたち}たたいて^{つく}形を作る。 3) ^{ちゆうしやう}鑄生: ^{きんぞく}金属を^と溶かして^{かたち}形を作る。 4) ^{さいくしやう}細工生: ^き木や^{たけ}竹で^{もの}物をつく。

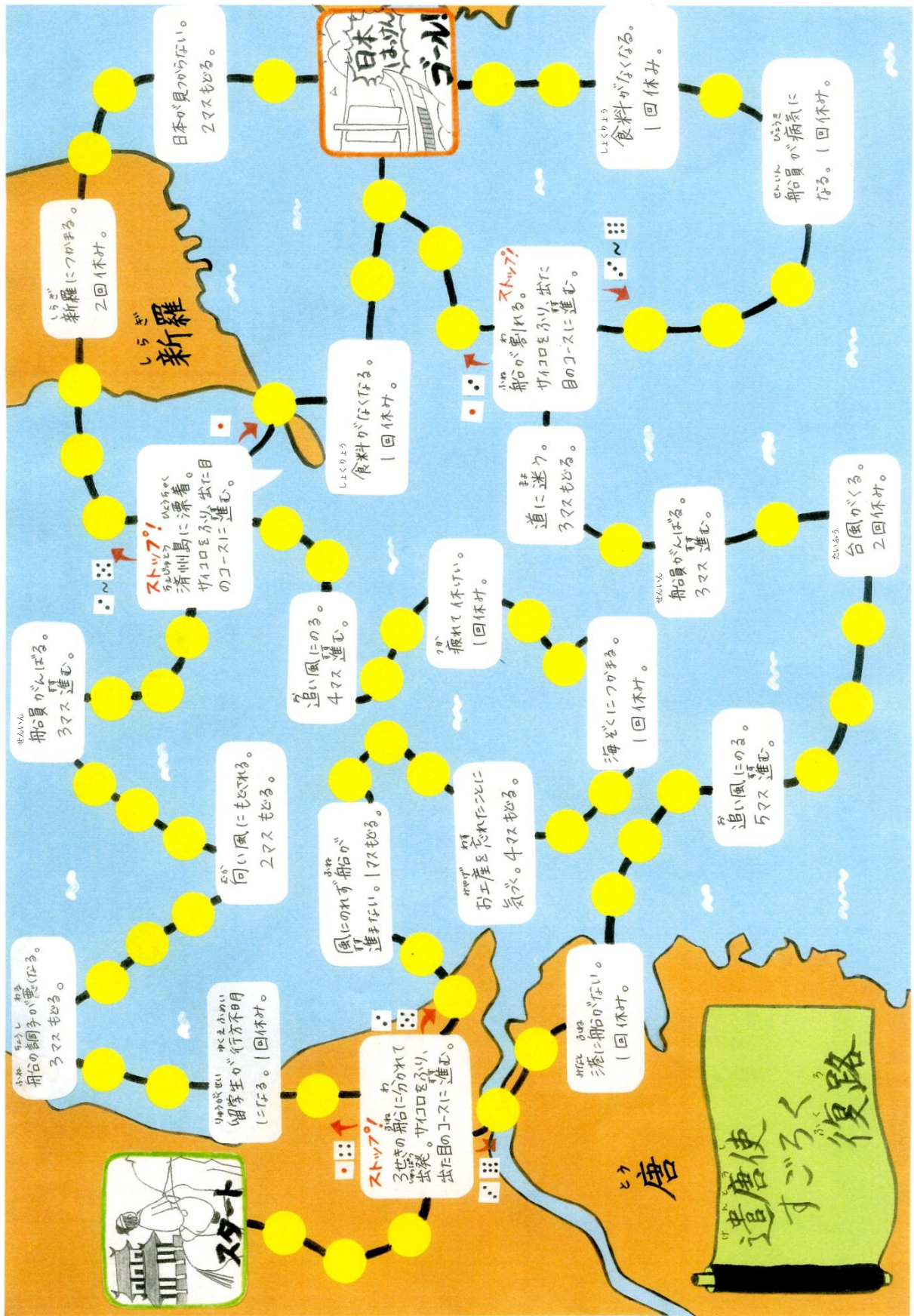
ヒントカード⑦ 「^{りゅうがくせい}留学生」には、^{ひと}どんな人たちがいたの？	1) ^{りゅうがくせい}留学生：^{ちようきかん}長期間，^{とう}唐で^{べんきよう}勉強する。 2) ^{がくもんそう}学問僧：^{ちようきかん}長期間，^{とう}唐で^{ぶっきよう}仏教を学ぶ。 3) ^{けんじゅう}僊従：^{りゅうがくせい}留学生，^{りゅうがくそう}留学僧の^{せわ}世話をする。 4) ^{げんがくそう}還学僧：^{けんとうし}遣唐使がいる間，^{とう}唐で^{ぶっきよう}仏教を学ぶ。 5) ^{しょうやくしょう}請益生：^{けんとうし}遣唐使がいる間，^{とう}唐で^{べんきよう}勉強する。
ヒントカード⑧ ^{たいし}大使・^{ふくし}副使の^{つぎ}次に、^{きゅうりょう}お給料を^{おお}多くもらっていたのは、^{ひと}どんな人たちなの？	^{とうじ}当時，^{けんとうし}遣唐使で^{はけん}派遣される^{ひと}人の^{きゅうりょう}給料は，^{きぬ}絹の^{ぬの}布でしはられました。 ^{たいし}大使・^{ふくし}副使の^{つぎ}次に^{おお}多くもらっていたのは，^{がくもん}学問僧（^{そう}長期留学）でした。その^{つぎ}次が^{りゅうがくせい}留学生（^{ちようき}長期留学）でした。
ヒントカード⑨ ^{けんとうし}遣唐使船の^{のりくみいん}乗組員の^{なか}中で，^{きゅうりょう}給料が^{いちばんやす}一番安かったのは，^{ひと}どんな人？	^か水手：^こ絹綿4屯，^{ひき}布2端，^{ぬの}夏冬の^{たん}衣服。

ヒントカード⑩ けんとうしせん ふね おお 遣唐使船の船の大きさは、ど れくらいなの？	ぜんちよう やく 全長：約30メートル はば やく 幅：約9メートル せきさいりよう にもつ おも やく 積載量（荷物などのせられる重さ）：約150トン
ヒントカード⑪ けんとうしせん しゅっぱつ じ き 遣唐使船の出発時期はいつ ごろ 頃なの？	けんとうし しょうがつ ちょうが ぎ さんれつ 遣唐使は、正月の朝賀の儀に参列するために、 はんとしまえ なつ しゅっぱつ 半年前の夏に出発していたよ。
ヒントカード⑫ けんとうしせん こうろ 遣唐使船の航路は、いくつ らいあったの？	けんとうしせん こうろ ほくろ なんろ なんとろう 遣唐使船の航路は、北路、南路、南島路の3つ があったよ。 ほくろ ちょうせんはんとう かいがんぞ すす なんろ みなみ 北路：朝鮮半島の海岸沿いを進む。南路：南シ かい いっき にし わた ようす こうかこう ナ海を一気に西に渡り、揚子江河口を進む。 なんとろう きゅうしゅう せいがん くだ あまみ おおしま ようす 南島路：九州の西岸を下って奄美大島から揚子 こうかこう 江河口をめざす。

ヒントカード⑬ けんとうし にほん も 遣唐使が日本に持ってきたもの のはどんなもの？	こうぼく せんじゅかんのん つく こうりょう くすり かがみ 香木（千手観音を作る）、香料、薬、鏡、 がっき ぶっきょう じゅきょう ちゅうごく しょもつ とうき 楽器、仏教・儒教など中国の書物、陶器、ガラ せいひん とう あたら れきほう ス製品、唐の新しい暦法など。
ヒントカード⑭ とう こうてい 唐の皇帝からいただく しなもの 品物はどんなもの？	こうきゅうきぬおりもの ぎん うつわ ぎんせいひん 高級絹織物、銀の器、銀製品など。
ヒントカード⑮ りゅうがくせい りゅうがくそう 留学生・留学僧には、どんな ひと な人がいたの？	あべの な かまろ とう かんりしけん ごうかく ・阿倍仲麻呂：唐の官吏試験に合格した。 きびの まきび とう まな きこく ・吉備真備：716年から17年間唐で学び帰国。 ふじわらの きよかわ けんとうたいし とう わた あと とう ・藤原清河：遣唐大使として唐に渡った後、唐に のこ とう やくにん 残って唐の役人になった。 ぎょうが ほっそうしゅう そう ・行賀：法相宗の僧。

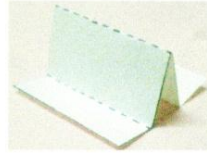
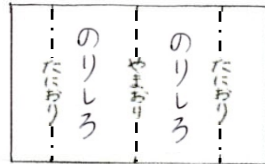
ヒントカード⑬ にほん どう こうてい 日本から唐の皇帝には、ど しなもの おく んな品物を贈ったの？	ぎん りょう きぬ あさ ぬの すいしょうせい 銀(500両21kg), 絹や麻の布, 水晶製レンズ, ひ う がね めのう あぶら あま ずらの しろ 火打ち金, 瑪瑙, つばき油, 甘葛汁 かんみりょう こしあぶら ふせ こうか わどうかいちん (甘味料), 金漆(さびを防ぐ効果), 和同開珎 ぎんせん さきん りょう (銀錢), 砂金(100両4.2kg)など。
--	---





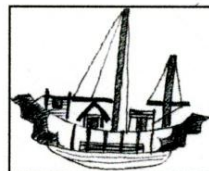
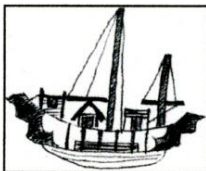
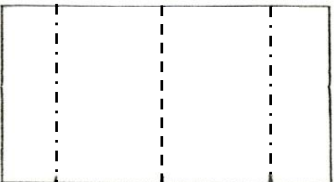
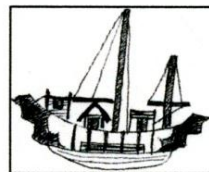
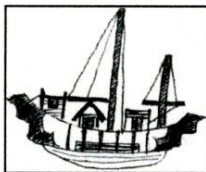
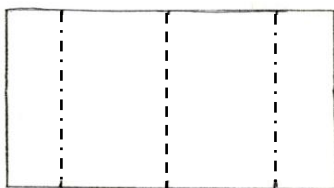
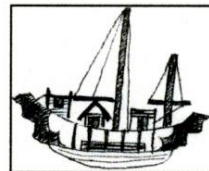
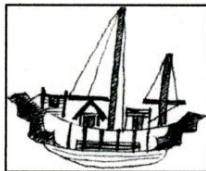
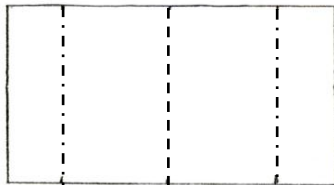
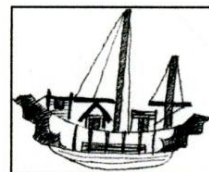
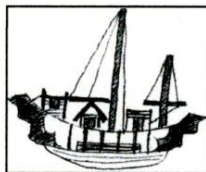
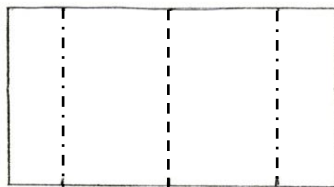
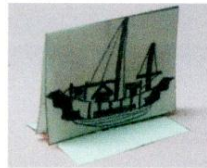
遣唐使船のこまを作ろう！

①点線に合わせて見本のようにおる



②のりしろにのりをつけ、

遣唐使船を両側にはって完成！



しりょう
(資料)

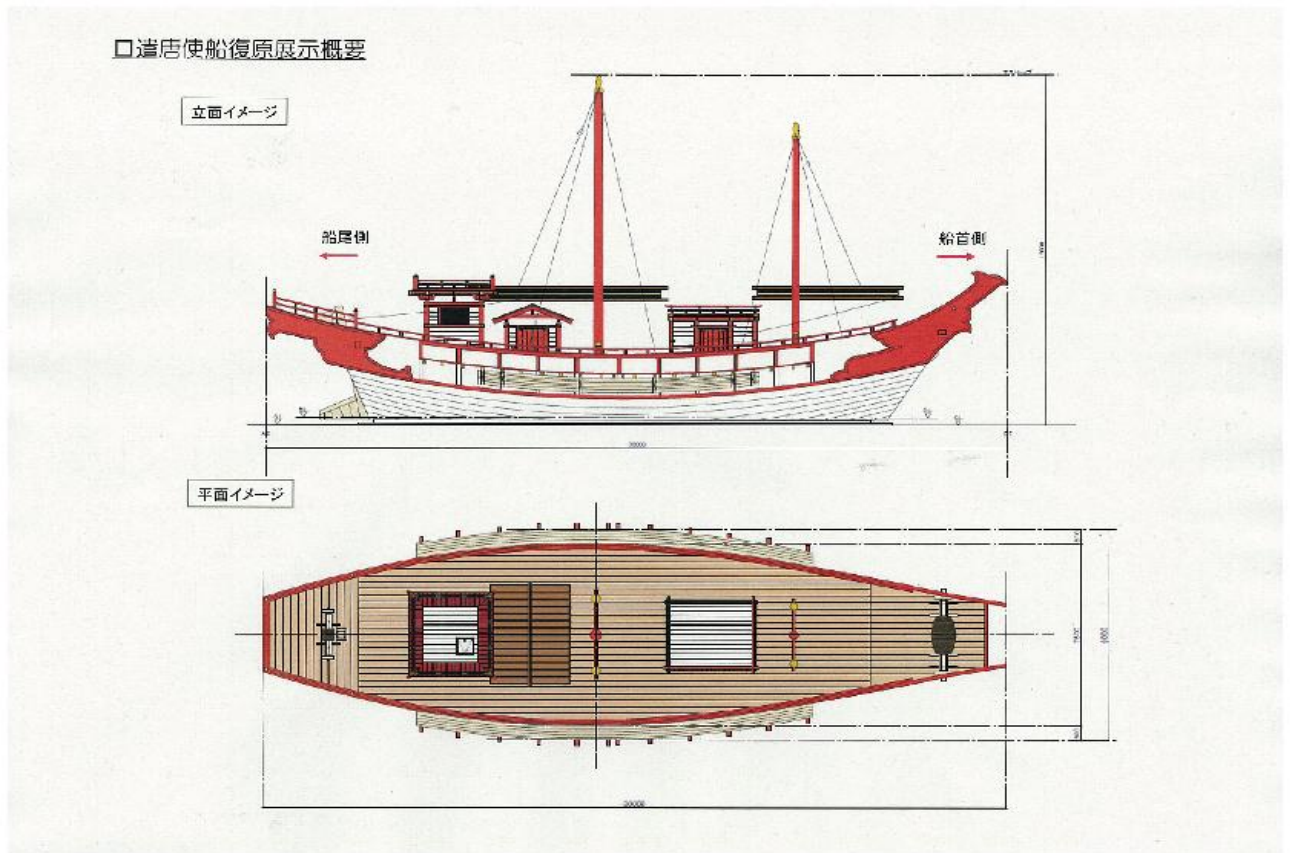
どうして、遣唐使は派遣されたのか？
(天皇はどうして唐(中国)に使節や留学生を派遣したのか？)

- 1 この船は平城京1300年祭に、平城宮の跡に展示されたものです。この船はどのような船か話し合って、まとめましょう。

◆ふくげんけんとうしせん
復元遣唐使船



◆^{ふくげんけんとうしせん そくめんず へいめんず}復元遣唐使船の側面図・平面図



^{な ら ぶ ん か ざ い け ん き ゅ う じ ょ て い き ょ う}
(奈良文化財研究所提供)

2 遣唐使船の想像図



3 遣唐使船の大きさなど

◆この船の大きさ・・・船の長さ 30m, 幅（最も広いところ）10m, 高さ（マストの上まで）15m⇒300 トンくらいの船ではないかといわれる。

マスト（帆柱）2 本

帆・・・網代帆…竹をうすくけずって，麻ひもであんだもの，他に布の帆も備えていた。

帆と艀で進む。

◆何人くらいの人に乗ったのか・・・約 1 5 0 人（半分は艀をこぐ水夫）

4 遣唐使船について、もう少し調べてみよう。

- ◆どんな人が乗ったのか・・・大使・副使(遣唐使の代表)など、通訳、医者、画家、唐に勉強に行く人(留学生・留学僧)、ガラス・金属製品を作る人などのいろいろな技術者、船長・水夫など
- ◆1回につき4せきで日本を出発⇒どうして?
- ◆難波津(大阪)出発は夏(現代の暦で8月ごろ)・・・もっとも台風の多い時期
- ◆唐に着いて、揚州から洛陽まで船で行った。その後、陸上を都の長安へ(ただし、長安には入れたのは一部の人だけ・・・50人くらい)
- ◆遣唐使船の航路
初めは朝鮮半島の沿岸を通る北路、8世紀からは新羅と対立したために東シナ海を横切る南路

5 遣唐使のメンバー

- ◆使節・・・大使、副使、書記官、従者など
- ◆船員・・・船長、機関長、操舵手長、操舵手、水夫長、水夫
- ◆随員・・・*通訳・・・唐語通訳、新羅語通訳、奄美語通訳
*技手・・・神主、占い師、医師、陰陽師、画師(記録係—今でいうカメラマン)、
射手、音声長・音声生(音楽家、音楽を学ぶ学生)、船匠
- ◆留学生・・・*技術研究生・・・玉生(ガラス・釉)、鍛金、鑄金、木竹工
*留学生・・・留学生(長期留学)、留学僧(長期留学)、従者、短期留学
生、短期留学僧

6 遣唐使が唐に持っていったもの、日本に持ってきたものは?

- ◆日本から唐へ・・・絹製品、銀、真珠、油など、和同開珎(日本のお金)も
- ◆唐から日本へ・・・陶器、鏡、ガラス製品、楽器などの工芸品、本、お経、仏像など
政治の仕方、道徳、天文学、音楽(楽器の演奏の仕方)、戦いの方法、
ガラスの作り方、薬の見分け方など

(追加の教師用資料)

1 遣唐使はなぜ派遣されたのか？

- ◆遣唐使は唐の都，長安に着いてから何をしたのか？

8世紀以降に派遣された遣唐使は、難波津（大阪）を船4隻，約600人で出発し，瀬戸内海から九州博多に向かいます。その後，南路を使って唐をめざします。南路は博多から五島列島を通して，東シナ海を一気に渡り，順調にいけば1週間から10日で唐の長江河口に到着します。（早いかわりに遭難も多く，大変な旅でした。）

長江河口から揚州に行きます。その後，当時つくられた運河を使って黄河に入り，洛陽まで船で行きます。その後，陸路を2か月から2か月半かかって長安まで行きます。長安に行けるのは，600人の内，50人前後でした。

長安に着いた約50人の遣唐使一行の泊まるところは，唐が準備をします。長安ではまず，唐の皇帝に会う儀式が行われます。そこでは，皇帝から日本の天皇，貴族，民の様子について質問があり，大使がそれに答えます。ここで，日本から持って行った品々が皇帝に渡されます。また，遣唐使から唐で買い物や見学をしたり，留学生，留学僧についてお願いをし，皇帝の許可を得たりします。その後，皇帝は遣唐使を招いて宴会をします。ここで，皇帝から遣唐使への贈り物が渡されます。

もう一つ，遣唐使の長安での大切な役目があります。それは，正月元日に行われる儀式に出席することです。この儀式は唐の貴族（位の高い役人）はもちろん，その時に長安にいる外国からの使節が全員出席します。

遣唐使は長安でこのような儀式に出席し，その後各地を見学し，買い物をして，皇帝からの贈り物を持って，日本に帰ることになります。

- ◆遣唐使には，日本から通訳がついていました。また，以前に遣唐使一行と唐に来て，留学生として学んだ人が，再び来ることもありました。

2 留学生・留学僧について

- ◆遣唐使と一緒に唐に渡って，唐で勉強をする留学生・留学僧は，普通は次の遣唐使が帰るときに日本に帰りました。例えば，吉備真備という人は，716年，20歳の時に留学生として唐に行きました。吉備真備は17年間唐にいて，政治の仕方，道徳，天文学，音楽，戦争の仕方など多くのことを学びました。そして，次の遣唐使と一緒に，734年に日本に帰りました。彼は，その後752年に遣唐使として再び唐に渡り，753年には，帰国しました。その時には，中国の鑑真という有名なお坊さんが一緒に日本に来ました。

- ◆阿倍仲麻呂も，716年に吉備真備と一緒に留学生として唐に渡りました。仲麻呂は唐に渡ってから，唐の位の高い人の子どものが入学する学校に入りました。その後，唐の役人になる大変難しい試験（科挙）に合格し，役人になりました。その後，唐の玄宗皇

帝にかわいがられ、皇帝の近くで仕事をする役人になりました。吉備真備が遣唐使として2回目に唐にわたり、753年に帰国するとき仲麻呂も帰ることになりました。しかし、仲麻呂の乗った船は暴風にあい、ベトナムまで流されてしまいました。そこで、唐に戻って安南節度使という位の高い役人になり、770年唐で亡くなりました。

また、最近中国で墓が発見された人で、日本名は分かりませんが、井真成という人も中国の役人になり、中国で亡くなったということです。

- ◆留学生・留学僧の中には遣唐使とは別に、渤海や新羅を通して帰ってきた人もいます。そのころ、日本は渤海や新羅と交流があり、使節も行き来していました。

3 宝亀8年(777)の遣唐使

- ◆宝亀7年(776)春日山のふもとで、安全祈願の祭礼を行う。6月、4隻の船で難波から北九州へ。(この間約1か月)⇒五島列島の合蚕田(長崎県上五島町相河、青方付近)の港でよい風が吹くのを待つ。⇒閏8月よい風が吹かないので、来年の夏まで出発延期を都に報告。⇒11月、大使一人都に帰り、天皇からの刀(節刀)を返上。12月14日、副使も交代。
- ◆宝亀8年(777)2月、春日山で安全祈願の祭礼。⇒4月17日、天皇、大使に節刀を渡す。大使は、難波までの途中で病気といって動かず。⇒6月1日、天皇、副使小野石根に大使代理として節刀を渡し、遣唐使船は直ちに難波を出発。(4隻)⇒6月24日、値嘉嶋(五島列島)を出発、東シナ海へ⇒第1～3船は7月3日に揚州・海陵県に着く。第4船も同じころ(到着日は不明)楚州・塩城県に着く。⇒第1・2船は長江河口に回漕、第3・4船は着岸地に留め置く。⇒唐の役人の取り調べで、朝貢使(遣唐使)と認められ、8月29日、江南の大都会揚州で一行は合流。副使2人は中国風の名前を称する。(石根は揖寧、末足は総達)ここで、長安からの指示を待つ。⇒長安からの指示は「上京の人数は60人」⇒人数を増やすよう交渉。都の指示を待つ。⇒「上京の人数は65人」⇒10月16日揚州出発⇒揚州から55km行った高武県(高郵県?)で都に行くのは20人に限ると連絡が来る。人数を増やす交渉、都からの返事待ち。結果は43人となる。⇒43人は長安に向けて出発、22人は揚州へ引き返す。⇒778年1月13日、石根ら43人は長安に到着(一行は迎賓館に)、1月15日大明宮の宣政殿でのあいさつ(皇帝は出席せず)国書、朝貢品を献上、3月23日、大明宮の延英殿で皇帝に目通り、皇帝への申請 ①国内各地の見学希望(孔子廟、寺院、道鏡寺院など)②買物物の許可申請⇒寺院などの見学、買物
- ◆778年4月19日、皇帝からの言葉「趙宝英に答礼の品をもって日本に行かせる。船は揚州で作らせる。」(遣唐使は答礼使節を断りたい)⇒4月24日皇帝に暇乞い、(趙宝英や業を終えた留学生もつれて)長安を離れ、揚州に向かう。⇒6月24日、揚州着(長安から2か月、日本を出発して1年)送使の船は簡単にはできない。送使趙宝英は小

野石根率いる第1船に同乗することに決定。

＊9月3日、第1・2船揚州を出発。蘇州（江蘇省）常熟^{じょうじゅく}県まで沿岸伝いに行き、常熟県で風待ち。⇒11月5日良風が吹いたので、1・2船とも出発⇒11月8日午後8時ごろ、第1船は暴風と高波に襲われる。船の両側の棚板破損、船内は水浸し、甲板流出、食料・水も流出。副使小野石根始め遣唐使38人、唐使趙宝英ら25人、海水に飲み込まれ、行方不明⇒11月11日午前4時ごろ、帆柱が倒れ、船は前後に真っ二つに分断。へさきの方には唐使の生き残りなど56人、艫^{とも}の方には判官大伴継人以下41人。はなればなれで漂流——重量を軽くするため、とも綱や舵、着ているものも海に投げ捨てる。——⇒11月13日の真夜中、艫の大伴継人らは肥後国天草郡西仲島（鹿児島県長島）に漂着、へさきの方も同じころ、薩摩国甑嶋郡（鹿児島県上・中・下甑島^{さつまのくにさきしまぐん}）に漂着

＊11月5日に第1船と同時に常熟県を出航した第2船⇒11月13日、薩摩国出水郡（鹿児島県出水市^{いずみし}）に帰着（航海の様子は不明）

＊第3船は9月9日に揚州海陵県を出航⇒9月12日に逆風が吹き、座礁。海陵県にもどり、船を修理⇒10月16日に再出航⇒7日後の、10月22日に肥前国松浦郡橘浦（長崎県五島列島^{さつまのくにいづみぐん}）に着く。（船はかなり傷んでいたが・・・。）

＊第4船、9月上旬に塩城県を出航。⇒船が耽羅島（大韓民国済州島）に漂着。指揮を執っていた判官海上三狩らは島民に捕らえられる。録事の韓国源ら40人余りは逃げ出す。⇒11月4日、逃げ出した韓国源ら40人余りは薩摩国甑嶋郡（鹿児島県上・中・下甑島^{さつまのくにさきしまぐん}）に着き、朝廷に報告。⇒宝亀10年（779）2月、朝廷は新羅に使者を送り善処を依頼。⇒7月、三狩らは新羅使とともに帰国。唐使の判官高鶴林も三狩とともに来日

◆海に消えた大使代理の小野石根は、功績をたたえて三階級上がり従四位下に。副使大神末足、判官小野滋野も2～1階級上がる。録事上毛野大川は外従五位下に。（従五位下からは貴族。それより下は役人）⇒大川は後に国史の編さんにたずさわる。（『続日本紀』の編さんなど）

参考文献：

- * 東野治之『遣唐使船 東アジアのなかで』朝日新聞社 1999
- * 東野治之『遣唐使』岩波書店 2007
- * 奈良国立博物館『平城遷都 1300 年記念 大遣唐使展』奈良国立博物館・読売新聞大阪本社・NHK・NHKプラネット近畿 平成 22
- * 読売新聞社『楽しくわかるガイドブック シリーズ 4 知ってる？正倉院 [遣唐使編]』読売新聞社 2008
- * 東野治之責任編集『遣唐使船—東アジアのなかで—』朝日百科・日本の歴史別冊 歴史を読みなおす 4 朝日新聞社 1994
- * 鐘江宏之『日本の歴史 3 律令国家と万葉びと』小学館 2008
- * 中村明蔵『鑑真幻影—薩摩坊津・遣唐使船・肥前鹿瀬津—』南方新社 2005
- * 鹿児島県坊津町歴史民俗資料館『あなたにも作れる遣唐使船 PAPER CRAFT』
- * 黒田日出男『吉備大臣入唐絵巻の謎』小学館 2005

執筆者： 真島 聖子
上田 崇仁
川口 直巳
山田 孝
王 絹
菊地 悠

レイアウト：森部 大悟

すごろく： 朝日 裕子
室田 真以

イラスト： サノ エミコ